

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ  
(2024年10月14日(月)～20日(日))

岸和田聖書教会  
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまをみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

今週もピリピ人への手紙を読んでいきます。「喜びの手紙」です。

10月14日(月)

今日の聖書日課：2:12～30

ですから大きな喜びをもって、主にあって彼を迎えてください。また、彼のように人々を尊敬しなさい。

ピリピ 2:29

この手紙をパウロが書いた目的の大きな一つが示されています。すなわち今は、パウロとともにいるエパフロディトをピリピに送り返すこと。「私の兄弟、同労者、戦友であり、あなたがたの使者で、私の必要に仕えてくれたエパフロディト」(25)。彼はピリピ教会から、パウロの働きを助けるためにローマの牢獄に遣わされた人。しかし、ローマで死ぬほどの病気にかかってしまいます(27)。神のあわれみによって彼はいやされましたが、パウロは、そんなエパフロディトを自分のところに置き続けるのではなく、ピリピに返そうとしたのです。想像してください。エパフロディトは自分のことを失敗者であると考え、気に病んでいます(26)。しかしパウロはそんなエパフロディトのことを、大きな喜びと尊敬をもって迎えよ、と命じました。

人の視点と神の視点は違うのです。あなたはごどうですか？喜ぶべき人、尊敬すべき人がいませんか？主にある喜びを教会の中で見出しましょう。

10月15日(火)

今日の聖書日課：ピリピ 3:1～11

キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。

ピリピ 3:9

パウロの喜びは、律法を行うことによって得られる義ではなく、十字架にかかりよみがえられたキリストを仰ぎ、この方を信じることによる義を与えられたことによりました。以前、自分の誇りとしていた出自、家系、自分の行い。パウロはそれらを「ちりあくた」だと考えました。これ上品な言い方ですが、何を意味するかというと、ウンコです。パウロの気持ちがわかりますか？キリストによる義、信仰による義とは、それくらい真実ですばらしいということです。

10月16日(水)

今日の聖書日課：ピリピ 3:12～21

兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

ピリピ 3 : 13~14

この目標とは何か？それは「死者の復活」。キリストがそうであったように（10~11）。しかし間違えてはいけません。人間のがんばりが、この復活をもたらすのでありません。あくまでも「キリストを信じることによる義」（9）。これが救いをもたらすもの。しかし、この救いをスタートとして、信じる者はゴール目指して走るのです。傷ついても、つまずいても。むしろその中にあるからこそこの「死者の復活」。クリスチャン生活って、こういうものなのです。あなたは目標目指して走っていますか？

10月17日（木）

今日の聖書日課：ピリピ 4 : 1~9

そうです。真の協力者よ、あなたにもお願いします。彼女たちを助けてあげてください。この人たちは、いのちの書に名が記されているクレメンスやそのほかの私の同労者たちとともに、福音のために私と一緒に戦ったのです。

ピリピ 4 : 3

この手紙の大きな目的と思われることが4章の初めに記されています。すなわちユウオディアとシンティケという二人の女性が和解すること。ピリピ教会のリーダーである彼女たちの交わりが回復すること。これ、教会にとっては深刻な問題でした。パウロはこの二人を名指しして和解を勧めますが（2）、同時に「真の協力者」と呼ばれていた人に向かってお願いしました。「彼女たちを助けてあげてください」。それはずばり、彼女たちが和解することができるよう、助ける、ということ。今、あなたは自分が「真の協力者」を必要とするような人間関係の中にいますか？もしくは、あなた自身が真の協力者として和解を助けるべき人たちがいますか？教会の交わりとはこういうものです。

10月18日（金）

今日の聖書日課：ピリピ 4 : 10~23

私は贈り物を求めているわけではありません。私が求めているのは、あなたがたの霊的な口座に加えられる実なのです。

ピリピ 4 : 17

この手紙の目的。さらにもう一つ。それは、贈り物（献金）の感謝。ピリピ教会からエパフロデイトを通して贈られたささげ物に対する感謝です（18）。しかしパウロは感謝しつつ「私は贈り物を求めているではありません」と言います。さらに献金してください、と言っているのではないのです。むしろ彼らの贈り物とは「あなたがたの霊的な口座に加えられる実」ある、ということを示しました。ささげ物とは「出すもの」ではなく、天に蓄えられていくもの。やがて私たちはその実を見ることができるのです。

10月19日（土）

今日の聖書日課：ピレモン 1 : 1~16

獄中で生んだわが子オネシモのことを、あなたにお願いしたいのです。

ピレモン 1 : 10

「ピレモンへの手紙」ですが、それは「オネシモ」という弟子のことについて書かれています。

10月20日（日） 礼拝説教箇所：ピレモン 1 : 8~17 「必要な受け皿」